

青年部新春座談会



次世代の産業廃棄物を考える

21世紀まであとわずか、私たち廃棄物に関わる業者にとって今年はひとつの節目になるでしょう。

『廃棄物処理法』の改正がどのような効果をもたらすか、増え続ける廃棄物をどうやって適正処理していくのか。最終処分場の問題など、いずれも一朝一夕には解決できないものばかりです。

そこで、社団法人愛知県産業廃棄物協会の青年部有志にお集りいただき、『次世代の産業廃棄物を考える』と題し、青年部の活動状況も合わせて大いに語っていただきました。

出席者	(社)愛知県産業廃棄物協会 青年部
会長	相木広昭／大府衛生株
副会長	五箇 始／(有)森田商店
副会長	永井良一／(有)永一産商
運営委員会委員長	稲垣順一／(有)名古屋清掃
直前会長	加山昌弘／加山興業株
総括幹事	西山幸光／(有)西山商店
監事	村上 治／(株)東海土木工業
司会	所 仁司(編集委員)

会員相互の親睦と連帯感の育成がテーマです

——発足の契機と青年部の存在意義を教えてください。

加山 そもそも青年部は協会の前身である組合時代から存在し、今年で5年目を迎えます。発足の契機は、愛産協をつくったメンバーが、仕事を通してお互いの親睦や連帯感を深めていくことに大変な苦勞をされたことがはじまりです。次代を担う青年たちには、このような苦勞が起らない組合をつくらなければならないと考えてこられたようです。顔だけ知っているのではなく、お互いの問題点や産業廃棄物問題に関わらず、あらゆる面で親睦を深め、人間として一歩も二歩も成長していける規律ある組織、規律ある人間の集団にしていきたいという願いを込めてつくられたのが青年部です。

現在、メンバーは30数名。廃棄物問題に意見と希望を持って取り組み、「協力」という名のもとにメンバー全員で支えあっているようなカタチをとっていきたいと思っています。

青年部新春座談会



会長 相木広昭／大府衛生㈱

相木 過去5年間は年6回、講演会や勉強会を催してきました。私たちは目標を5年、10年先を見込んだ未来に合わせています。いま、青年部のメンバーは現場作業や営業など第一線で働いている

者ばかりです。しかし、何年か経つと社長として、従業員を使って会社を運営していかねばならない。そうした時に青年部での勉強が、少しでもプラスになってくれれば、青年部のあった意義もあると思うのです。

また、将来的に協会の活動をして行く上で、私たちの親が理事やメンバーをやっていた時代と、私たちが理事なりメンバーになる時代とは当然ながら違うわけです。まわりの環境も違うでしょう。その中で協会のこれまで以上の発展を期すためにも青年部は貴重な存在であると思います。

加山 私も青年部に入ってわかったことですが、いろいろな意味で勉強しなくてはならないことがたくさんあるということ。特に組織という部分において、私たちのように組織の姿、形、システムを度外視して大人になってきた人間には大変勉強になることばかりでした。ここに見えるみなさんも同様の経験があると思いますが、『俺がやるんだから、俺のやり方でいいんだ』というスタイルを取りがちな私たちにとって、青年部は一種教育の場。物事にはケースバイケースがあり、お互いのやり方を決めつけるのではなく歩み寄ることも必要、ということを私自身学ばせてもらった感じがします。人間教育、これは現会長の相木さんも提唱されていますが、ヒューマニゼーションの確立にも大いに役立っています。

相木 いま、加山さんが言われたように、青年部をつくることによって仲間意識が芽生えれば、単なる同業者ではない利害関係を越えたつながりが生まれてきます。『ちょっとウチの方が忙しいから、応援頼む』という話も出てくる訳です。このように手を握り合っている仕事が、青年部の活動から生まれたプラスの面であり、組織に入って自分たちが動くこと、人を動かす力が会社運営にとって必要だと痛感しています。

仲間といっしょに企画・立案したり、青年部を運営していく中でのいろいろな勉強の一つ一つが自分の知識になる。知識が生まれれば、それをステップに知恵が生まれてくる。この知恵こそが、会社運営に重大なプラスになると思います。

——確かに人間関係は大切ですね。もう少し青年部の活動状況を詳しく教えてくださいませんか。

相木 青年部には協会と同様、委員会を設けて活動をしています。運営委員会、交流委員会、総務委員会の3委員会があり、それぞれの委員長のもとに勉強会を開いています。また、青年部の体制は会長、直前会長、副会長、総括幹事、監事から構成されております。10月例会の時、協会も社団法人化されたのを契機に、青年部も一気にPR活動をしていくことを決定しました。非青年部の方々に案内状を送り、11月には30名程の非青年部の方々といっしょに勉強会を開催し好評だったので、これからもどんどんやっていこうと思っています。

——機関誌もできましたし、青年部の存在をどんどんアピールしてください。

稲垣 僕はまだ青年部に入って1年もたっていませんが、運営委員会の委員長として例会を担当しています。先日の例会では、南極大陸を横断した方をお招きして講演していただきました。講演を通じての勉強会も刺激があり楽しいのですが、最近はもっと身近な廃棄物問題に関する勉強をしていきたいと思っています。仕事に直結した実務

青年部新春座談会

的な勉強会を行いたいですね。

——次に今回の『廃棄物処理法』の改正はどのような形で進んでいますか。

相木 端的に言ってわれわれ業者にとってきびしいものじゃないですか。これだけ環境問題が騒がれていますから仕方がないと思うのですが、一つあげるならば



直前会長 加山昌弘／加山興業(株)

一般廃棄物と産業廃棄物の扱いがあからさまに分かれている。一般廃棄物は自治体が関与しているが、産業廃棄物はわれわれ業者が率先して処理しなければならない。発生場所が家庭と工場と違いがあるが、同じ日本から出る廃棄物のはず。生産工程から出るのは全て産業廃棄物という見方は全く頂けません。私どもの会社では一般廃棄物も産業廃棄物も処理していますから、そのギャップがよくわかるわけです。一般廃棄物は公共施設の処分場ができればそこへ搬入できます。料金を支払う市町村もあれば無料で取ってくれる市町村もある。片や産業廃棄物は、工場からトラックに積んだ時から私どもが全て責任を持って最終処分まで行わなくてはならない。これは非常に不均衡だと思います。

——では、今後の産業廃棄物処理はどうあるべきだと考えていますか。

相木 適正な料金をお客さんからいただいて、適正な収集・運搬、最終処分をすればいい。これに尽きるわけです。ただ、5年、10年前と今では廃棄物の排出量と質があまりにも多様化している。昔みたいに、収集・運搬・最終処分、埋立てたらそれで良いという時代ではなくなってきました。今後は、廃棄物の減量化のため、中間処理施設を

設ける必要があります。しかし、中間処理施設を設置し処理している企業が少ない。それは莫大な費用がかかるからです。ということは、必然的に大きな企業しかできない。収集・運搬業、



副会長 永井良一／(有)永一産商

者にとってこの問題は解決しなければならない大きな課題だと思います。

モラルを持った適正処理が大切



監事 村上 治／(株)東海土木工業

加山 会長の発言に付け加えるならば、現在の処理料金というのは、処理業者側ではなく廃棄物を出す排出事業者の立場で処理料金の設定がされています。また、関東あたりの

処理単価と比べて、愛知県の処理料金は非常に安い。一体なんだろうと。適正な処理をやっていけば、当然それなりのコストがかかるわけです。コストをいただけるような処理体系に処理業者はしていかなければなりません。いま言われた、産廃をどうするか。進むべき方向は安定化・減量化へ決まっているわけです。適正な処理を処理業者は行い、排出事業者は適確な分別を行う。このスタイルをきっちり守っていけば減量化はできるということ。結局、処理業者として、われわれがモラルを持つことに尽きると思います。今度の法改正にからめていかなければ、劣悪

青年部新春座談会



入先も国民も含めてトータルで応援していただかないといけない。また、産業廃棄物を棄てる場所は最終処分場以外には場所がない、あとは中間処理施設で減量化するし

な業者はもうやめなさいと、長い間やっているのではないではなく、きちっとやる気のない人はもうやめなさいよと法文に如実に出ているのではないか。そんな風に読みとれてしかたがないですね。

永井 私は産業廃棄物処理に関しては、法改正の後ということで企業も一般市民もテレビやマスコミ等で騒がれたことも手伝ってよく浸透しています。ここでわれわれが優位に立つか、排出事業者が優位に立つかが勝負の分かれ目であり、その結果、この事業に熱意を持ってやっていくか、潔く敗れてやめるか、のどちらかだと考えています。私の希望としては、協会がもっと力を持って最終処分場なり中間処理施設をつくること。そのなかに私どもが入るといった形をとらないことには、われわれ、収集・運搬業でやっている者にとっては、やめざるを得ないという状況ではないかと思っています。もっとみんなで勉強をして、早く排出事業者よりも優位に立ってものごとを進めていかねばならないと痛感しています。

西山 僕はもう少し違った考えを持っています。産業廃棄物処理は全体的に見て新聞等でにぎわっているように、リサイクル・再資源化が叫ばれています。再資源化するにあたって採算が合わなければ企業として当然、再資源化ができない。リサイクル事業を民間ベースで企業がやるならば、受

か方法はない。狭い国土に最終処分場があとどれくらいできるかという問題、他県の廃棄物持ち込みの問題など問題点は多い。永井さんが言われたように、産業廃棄物処理は新聞・マスコミによって広く浸透しました。今度は協会が、産業廃棄物処理はそんな簡単なものではなく難しいんだと、特に最終処理場をやっている業者は大変なんだと、もっとPRしていただいて業者が仕事をやりやすい環境をつくってもらいたいですね。

村上 私どもは、建設関係の廃棄物、建設汚泥の中間処理を行っているのですが、建設業に関して出された建設廃棄物のガイドライン、あれで一気に産業廃棄物というものが増えました。発注者側から莫大な量の廃棄物が出るんです。問題は、発注者側の廃棄物に対する認識が薄いことです。しかも、発注者は民間ではなく公共の土木工事。あくまでもお金が第一という感覚から、とにかく運べばいいんだと、指定の場所へドンとぶちまけて乾かして埋めろ、というような指示がまだこの数か月前でも出ている。ですが、許可を得てやっている以上、それはできない。厚生省管轄の保健所に問い合わせると、そんなことはダメだという。しかし、交通局や道路公団はかまわないという。そんな時、私たち業者は困るんです。いま、適正処理という面から、私たち業者もリサイクルをしないと廃棄物を持っていく場がないものですから、

青年部新春座談会

有効な成分はリサイクルしていますが、発注元がお金がないからぶちまけなさいと言ったら、もうどうしようもない。そのあたりの認識をもっと業者より役所内の発注する側に説明会を開いてもらいたい。そうしないと適正処理の実現はできないのではないかと思います。

五箇 一番言えることは矛盾が多すぎるのだと思います。行政側はリサイクルを呼びますが、結局、リサイクルしたら業者が損をしてしまう。例えば、再生組合から鉄の受取り有料化の話があ



総括幹事 西山幸光/㈱西山商店

りましたよね。先日も交渉に行ってきたのですが、有料で取るのならば再生組合は産業廃棄物の中間処理の許可を取得するのかと聞いたんです。その答えは、組合としてはその方向性は持っていないとのこと。彼らは鉄クズを産業廃棄物と考えていないのです。でも、われわれの考え方からいくと、お金を払うからには産業廃棄物になると思うのですが。そして、鉄の価格が下がれば処分代は上がる。対応に悩みます。そのあたりの矛盾をはっきりさせるべきだと思いますね。

業界をリードする力のある協会を望む

——協会に期待することは何ですか。

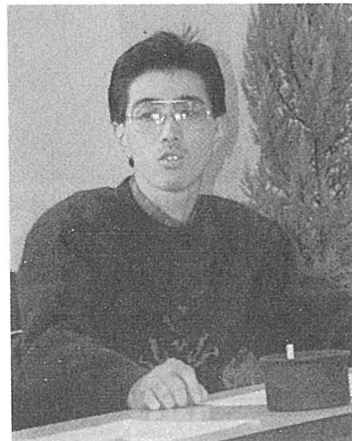
加山 厚生年金基金の問題ですね。まだまだ、加入者が少ないので設立に尽力してほしいです。退職金の問題もそう、この業界に勤めている人は何年勤めればいくらになるとか、従業員さんの組合ができるとか。従業員さんにそれなりの還元ができる、かくれた部分のない協会になってほしい。

処理費用に関しても、適正処理を行えば一体いくらもらえるのかを一つのテーマとして協会が定義づけしてほしい。排出事業者側で決定されるのではなく、われわれがイニシアティブを取っていただけることを希望します。

西山 やはり中間処理施設をみんなでつくりたい。これは青年部が発足した時からの夢でした。協会なり青年部なりで中間処理施設をつくれれば、そこが排出事業者になる。協会のメンバーというメリットによって、もっと強い団結が生まれるのではないかと。国や県にものを言うには協会に力をつけてほしい。



運営委員会委員長 稲垣順一
/㈱名古屋清掃



副会長 五箇 始/㈱森田商店

稲垣 今後、第3セクターの処分場ができる過程のなかで、協会が加入できるようになってほしい。また、青年部の中でも第3セクターの処分場が、もっと使いやすくできるようアプローチして

青年部新春座談会

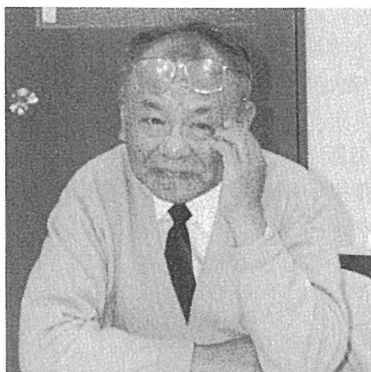
いきたいです。協会には、行政と協議できる力を持ってほしいと思います。

永井 やはり力のある協会を望みます。

村上 力のある協会づくりも当然ですが、協会に任せておけば大丈夫、という信用のある仕事ができる会員の集団でありたい。そのためにも、青年部が先頭に立っていききたい。勉強会、親睦会を通して、お互いをもっと深く知り合い、切磋琢磨して協会のレベルを上げていくと。5年、10年先に、協会の業者だから安心だと言われるようにしていきたいです。

五箇 協会にはわれわれのような青年部、若い会員がどんどん発言できる場をつくってほしいです。その発言ができるよう、青年部をもっと発展させたいと思います。

——最後に、会長から今後のビジョンをお話しいただけませんか。



司会 所 仁司／編集委員

相木 いま、みなさんがおっしゃられたことを目標に青年部を運営してきました。5年目の節目を迎え、来年は初心にかえてメンバーの拡大、資質の向上、いままでとは一味違う勉強会をやりたいと青年部メン

バーの意見が一致しています。また、青年部を卒業したメンバーが協会の理事なりメンバーになって活動するようになったら、中間処理施設や最終処分場の建設等の大きな目標を実現してほしいと思います。残念ながら、いまの青年部にはそれを実現するにはまだ力不足です。青年部の活動を長い目で見ていただきたいですね。

これからも大いにハッスルして交流を深めてください。本日はお忙しいなか、どうもありがとうございました。

